

「災害遺構」の収集及び活用に関する検討会委員会(第2回)議事要旨

開催日時・場所 平成27年11月17日(火) 9:30~11:30
中央合同庁舎8号館 4階407-2会議室

1. 開会、委員・事務局紹介(事務局)
2. 杉本委員による取組に関する発表 (資料1)
3. 林委員による取組に関する発表 (資料2)
4. 川島委員による取組に関する発表 (資料3)
5. 遺構等の整理表および報告書骨子案に関する資料説明(事務局) (資料4・5)

6. 意見交換

各委員からいただいた意見は以下のとおり

- ・「災害遺産」と「災害メモリアル」の2つでは、どちらかという「災害遺産」のほうがなじみやすい。このほかにも「遺産」はたくさん使われているので、埋没してしまうことも懸念される。
- ・「遺産」ブームの中で埋没する可能性は高い。「災害遺構」「災害遺構等」として、歴史的な経緯も定義の中に含めて記載するとよい。
- ・リスト化・データベース化すると、記憶・継承のためには重要な要素である経緯や葛藤などが表現しづらくなる。
- ・メディア露出、表彰、社会的な評価を与えるは重要である。祭礼、行事は、特に宗教的なことに対する評価は、ある意味、優劣をつけることになるため、メディア露出などのしくみを考えておく必要がある。
- ・現場の写真などは一覧表では使わないほうがよい。地形や地図などのリンクは徐々に充実させていくとよい。評価は、A、B、Cのような固定的なものではなく、活動の継続も評価に値するため、表現の工夫、防災という観点も含めた意味づけができるとよい。
- ・ホームページ上では、まずリストを提示し、そこから詳細な情報にジャンプするようにしたい。詳細な情報には、背景・経緯なども記載するほか、地元の取組のリンクを記載することもできるだろう。
- ・評価については、ホームページ上で「いいね」のような閲覧者による評価が考えられる。新しい表彰制度を設けることも考えられるが、既存の制度を拡充させるという方法もある。
- ・自然災害の分類、地域はバランスよくしてほしい。全国の各地からアクセスするので、配慮が必要と思う。
- ・「災害遺産」「災害遺構」という言葉の定義では、土木・工学分野においては「災害遺構」には不動産という定義があるらしい。例えば建物、被災したガードレール、動かないものを「災

害遺構」と呼ぶと聞いた。「災害遺構」「遺産」もありながら、「遺構」という言葉も既に走り出している。

- ・「災害遺構」の言葉の使用については、次回の会議で決定する。

以上